

## 学校法人国際基督教大学

### 2015年度事業計画

国際基督教大学は、キリスト教の精神に基づき自由にして敬虔なる学風を樹立し、国際的社會人としての教養をもって神と人とに奉仕する有為の人材を養成し、恒久平和の確立に資することを目的として献学され、2013年に60周年を迎えた。今後も、学問への使命、キリスト教への使命、国際性への使命を掲げ、新しい時代の潮流の中で本学の理念を実現していく。2014年9月には文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」(SGU)に本学の取組『信頼される地球市民を育むリベラルアーツのグローバルな展開』が採択された。本取組の着実な遂行により、世界のリベラルアーツ大学と協働して、本学の使命を果たしていく。2011年から5年間にわたり、教育理念を具現化する献学60周年記念事業を展開しているが、最終年となる2015年も本事業を通じてさらなる発展を図る。

国際基督教大学高等学校は、その献学の理念と使命を国際基督教大学と共有する。帰国生が全生徒の3分の2を占め、多様性の中で生徒たちが共に学び、共に生活し、互いに他者と自己への理解を深めている。国内外の各大学への進路実績も高い。卒業生たちは世界各地に散り、様々な分野で活躍している。また、本校は、2014年5月に文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」(SGH)に指定され、国際的視野を持ち、問題解決能力を持っているグローバルリーダーの養成を目指す。

学校法人国際基督教大学は、中長期的展望に立ち、国際基督教大学及び国際基督教大学高等学校がさらに発展し献学の理念を達成するために、2015年度は以下のような事業に取り組む。

## I. 大学

### 0. キリスト教精神に基づく教育環境の充実

キリストの福音によって立つ大学として、大学礼拝、C-week(キリスト教週間)等、キリスト教諸活動の実質化を推進する。特に、時間割改革(後述)のなかで大学礼拝の時間帯を見直し、2016年度からの実施に向けて、2015年度は学生・教職員が出席しやすいスケジュールの検討・調整を行う。

### 1. ICUで学ぶ潜在的な能力／資質を持つ入学者を選抜する制度の強化

#### (1) 一般入学試験

2014年度に改革をスタートさせた一般入学試験では、センター入試利用を停止したことにより、センター入試利用にかかる募集人員40名を加え290名とし実施したが、2015年度については、さらに一般入試募集人員を300名(A(290名)・B(10名)方式合計)とし、試験科目数に関しても4科目から3科目に変更し実施する。加えて、従来の入試方法をA方式及びB方式(英語の外部試験(IELTS, TOEFL)の導入及び面接)の2方式に変更し実施する。A・B方式とも「聴く」入試(総合教養)を新たに導入し、多面的な尺度による入試を実施し、本学の理念にふさわしい学生を訴求的かつ特定層に偏ることなくバランスよく選抜する。また、社会人特別入学試験に関しても一般入学試験B方式に準じた形(TOEIC利用も可とする)で選考し、本学の理念にふさわしい学生の選抜を同時に行う。この入試結果をもとに受験者、志願者、合格者、入学者のデータ分析を体系的かつ継続的に実施し、新入試制度を基軸とした入試広報を展開する。

さらには、2016 年度からウェブ出願をスタートさせ、受験生の利便性を高め、受験の準備段階からオープンキャンパス情報を提供する等、受験意欲を促進させるゲートウェイの整備を行うことによって本学志願者数の確保と増加に努める。

特に入試制度改革の初年時ということもあり、受験常連高校に対し入試制度改革後の当該高校の受験生及び関係教員の感想等を収集/データ化し、入試広報に活用する方法を確立する。また、国内地域ブロック別に対象となる受験常連校でのモデル授業をより効率的かつ効果的な形で展開し、ブロック拠点となる高校との連携を強化し、関係を再構築する。

(2) 4 月入学帰国生特別入学試験

4 月入学帰国生特別入学試験についても一般入試での導入に併せ、ウェブ出願を導入することにより受験生の利便性と受験意欲を増進させるゲートウェイの整備を同時に行い、多様な海外経験のある本学志願者の受験準備段階での負担感を軽減させ、地域ブロック別に受験生数の増加に努める。

(3) ICU 特別入学選考 (A0 入試)

ICU 特別入学選考 (A0 入試) については、2014 年度に B カテゴリー入試の出願資格及び選考方法を変更した。この変更により、2014 年度はこれまで志願者のなかった B カテゴリー入試に 2 名の受験者があり、うち 1 名が合格を果たした。この結果を踏まえ、本学リベラルアーツ教育の特徴のひとつである「文理の枠を超えた教育スタイル」を入試広報で展開し、本学の理念に相応しい学生を獲得する。また、募集人員の適正化を念頭に、他入試制度の変更も勘案し総合的な検討に入る。

(4) 指定校推薦入学試験 (対象：キリスト教学校教育同盟加盟校)

指定校推薦入学試験 (対象：キリスト教学校教育同盟加盟校) については、2016 年度入試より推薦入学試験の出願資格を変更し、指定校推薦入学試験 (対象：本学が特に指定する高等学校) と同じ資格とする。この結果を受け、効果を検証する。また、指定校推薦入学試験 (対象：国際基督教大学高等学校) については、2015 年度の出願状況を勘案し、本入試制度の総合的な改革を視野に入れた検討を関係委員会で開始する。2016 年度入試以降の他の入試制度変更 (募集人員等) を視野に入れた上で検討する。

(5) 9 月入学

2015 年度に書類選考方法 (SAT の出願要件の変更) の見直しを実施し、受験生数の増加に結びつくよう受験機会の拡大を図った。また、ウェブ出願を導入することにより、従来の郵送による出願提出書類点数の削減及びウェブ入力による受験生負担の軽減による受験生数の増加を期する。特に現在まで推進してきたアジア地域 (タイ、シンガポール、香港等) からの志願者獲得をさらに重点化し、現地インターナショナルスクール等からの帰国生だけでなく、4 年本科留學生の増加に注力した活動を実施する。なお、リクルート活動の中ではアジア地域だけでなく、欧米での留学フェア等を利用した活動ともなう現地校訪問等を計画し、情報の訴求に努め、現地校との更なる信頼関係を構築し、受験生の増加を期する。

また、ウェブ出願の導入により潜在的志願者の分析が効率化され、受験広報のアプローチが最適化されることが期待できる。同時にカリキュラムにおける各メジャーの英語開講科目の増加を図ることにより、募集人員 (90 名) の充足を前提とした、9 月入学生生の割合を増加させるためのターゲットを絞り込んだ効率的なリクルート計画を立て、実効性のある広報活動を展開する。

結果として、4 年本科留學生数の増加 (北米、アジア等、地域ブロックを設定してリクルー

ト)を期する。加えて、関係委員会で現状の書類選考制度改革を総合的に検討し、グローバル化に対応した4月入学の外国人留学生及び9月入学の日本人学生を対象としたアドミッションズ・オフィス入試の導入を前提とした実行体制構築のための協議に入る。

## 2. 教学改革の推進：教養学部

### (1) 教養学部改善

2013年秋に学長から教学改革レビューの開始が公式に宣言され、教養学部長を中心とした体系的な改革評価が始動した。教養学部長による『教学改革レビュー』に基づく改革草案、及びSGU調書に提案された実施項目に基づき、2016年度実施を目指して、各種委員会が検討を重ねてきた。大きな柱は、メジャー制度の効果をより高める学系の導入、カリキュラムの見直し、学修／教育支援の充実であるが、具体的には、語学能力に応じた新入生の受け入れと世界の言語の整備、一般教育プログラム及びIDメジャーの再編、受講生数の多い基礎科目への対応、英語開講科目の増加、時間割の見直し、関係部署を統合した「Center for Teaching and Learning（学修教育支援センター）」の設置等、多岐にわたる項目が挙げられる。これらの一部は2015年度に実施可能だが、基本的には2016年度実施に向けて、2015年度は検討及び調整を行う。

#### ① 学系の導入とこれに伴うカリキュラムの見直し

##### (i) 学系

現在の23メジャーを「人文科学系」「社会科学系1」「社会科学系2」「自然科学系」「教育・心理学系」の5つにまとめ、グループを一つの学問体系として扱うことで、学生のメジャー選択の基盤とする。学生は3学期目の終わりまでに学系を選択し、6学期目の終わりにはIDメジャーを含む31メジャーからメジャーを選択することになる。2015年度は学系導入に向けて検討を開始し、これに合わせたカリキュラム変更を検討する。

##### (ii) 基礎科目

各学系が開講する基礎科目及び学系横断型基礎科目の2016年度設置を検討する。また、学系の導入により、学系ごとの対応教員数と登録学生数の平準化を図り、英語開講科目数を維持する。

##### (iii) 一般教育科目

一般教育科目は基礎科目との差別化を図りつつ、2016年度実施に向けて系列Ⅰ・Ⅱを見直し、学系横断型一般教育と少人数制一般教育科目の設置を検討する。

##### (iv) IDメジャー

従来の8つのIDメジャーに加え、自由に複数メジャーを選択できる「学際IDメジャー（仮称）」を2016年度に設置することを検討する。IDメジャーの再編や、専任教員の配置等、運営方法を再検討する。

#### ② リベラルアーツ英語プログラム（ELA）／日本語教育プログラム（JLP）の語学能力に応じた新入生の受け入れ

ELA、JLPの語学プログラムの関係性を強化し4月入学生、9月入学生それぞれに適した語学カリキュラム導入に向けた調査・検討を行う。そのために学則改定を行い、4月生でもJLP科目、9月生でもELA科目の履修ができるよう準備を進める。

#### ③ 時間割の見直し等

学系導入や新たな語学プログラムの導入等大きな教学システムの変更を実現するには、時間

割の改革が不可欠である。学生に分かりやすい仕組みとし、教学システムを的確に運用できるようにする。

## (2) リベラルアーツ英語プログラム (ELA: English for Liberal Arts) の充実

2012年度から新たにスタートした「リベラルアーツ英語プログラム」(ELA) は、引き続き、初年次教育の柱であるが、SGU 事業の一環として、4月生のみならず9月生や大学院生に対するカリキュラムを充実させるため、以下の取り組みを行う。

- ① 教育効果の検証と英語運用能力のさらなる伸長を目指し、ELA プログラム修了時 (Streamにより1年次の秋学期から2年次の春学期まで異なる) に、英語検定試験「IELTS」を受験させる (2014年度より継続)。その結果を基に、ELA プログラム履修後の言語運用能力を、ヨーロッパ共通言語参照枠 (CEFR: Common European Framework of Reference for Languages) によって明示する (2015年度新規取組)。さらに、学修支援の一環として、新しい科目 (上級総合英語: IELTS) を2015年度から開講する。
- ② 2015年度からは、一部の学生を抽出し、入学時のプレイスメントテスト (TOEFL: ITP) とは別に、初年次の1学期中に IELTS を受験させる。同じ学生に ELA プログラム修了時に IELTS を再度受験させ、2つのスコアの比較検証を行い、カリキュラムの効果も測定する。
- ③ 自然科学系の学修充実のため、すべての4月生について ELA の最終科目である「論文作成 (Research Writing)」の中に、自然科学系のトピックを入れる。あわせて、ELA 独自のテキスト (ELA Reader) の中に、自然科学系文献を含めるべくテキスト選定作業を行う。(2015年度は、候補論文をパイロットとして使い、2016年度からテキストに含める予定。)
- ④ 柔軟で多様な語学プログラム確立のため、9月生を対象とするアカデミック・ライティング (英語) 科目を拡充すべく、9月生の英語力や必要とされるカリキュラムについての検討を行う。
- ⑤ 従来の「研究者のための論文作成法 (英語)」 (冬学期開講) だけでなく、英語力増強と英語論文作成サポートが必要な大学院生を対象に、「アカデミック・イングリッシュ」及び「研究のためのアカデミック・イングリッシュ」を2015年度より新規に開講する。

## (3) 日本語教育プログラム (JLP: Japanese Language Programs) の拡充

2013年9月にJLPカリキュラム改革を実施したが、多様化する学生のニーズに合わせ、さらに自律的学習を促進するコースの拡充と教材の開発を進める。2015年度にはJLP/ELA相互乗り入れの第1段階として4月生に対しプレイスメントテストを行い、該当のSpecial Japanese コースの履修を推奨する。Academic Writing in Japanese を複数学期開講し、4月生受け入れの対応とする。また、2015年度から開始する春学期入学の1年本科生受け入れ態勢を整え、複数開講コースを増やす。一方、JLPでは、1963年以来独自の日本語教科書を作成しており、近年では、1995年に初級日本語教科書『Japanese for College Students Vol.1~3』を出版し、世界各地で使用されている。今後は、時代に即した教科書等を新たに開発・作成すべく準備を行う。

## 3. 教学改革の推進: 大学院

2010年度に「リベラルアーツの先のプロフェッショナルへ」をキーワードに従来の4研究科を統合した「アーツ・サイエンス研究科」は2013年3月に完成年度を迎え、学位授与累計は博士前期課程150名、博士後期課程は11名になった。1研究科になったことで、専門性を深めつつ豊かな学識を養うための複合的な履修が可能となったが、カリキュラムや制度、管理運営等を検証し改善を図る。また、収容定員の充足を最重要課題と捉え、5年プログラムを含む本学学部生への

リクルート活動や国内外の他大学出身者を具体的なターゲットとした広報戦略を展開する。

以上の目標を達成するため、2015年度は以下の事業を行う。

(1) 大学院改革の評価と改善

授業評価アンケートに代わり、授業実施及び研究指導状況に係るアンケート調査を実施する。大学院改革が掲げる「文理横断的で幅広く深い学識の涵養」が具現化されているか、専攻毎のディプロマポリシーに沿ったカリキュラムや指導が提供できているか等、修了生の視点から検証を行い、大学院改革の評価と改善を行う。

(2) 学生募集の強化

① 5年プログラムのリーフレット全面改訂

(i) ターゲットを高校生（受験生）にシフト

これまでは配布対象として本学学部生を前提としていたが、高校生を対象に設定することで、リベラルアーツが提供する多彩なプログラムの一環として大学選択の動機付けにする。また、入学前から本学大学院の認知度を高め、大学院進学の際の選択肢に加えられるようする。

(ii) モデルカリキュラムの明示

手続きや要件の提示だけでなく、本プログラムの具体的なプラン（モデルカリキュラム）や修了生（例：国際機関職員、金融アナリスト、学芸員等）のインタビュー記事を掲載し関心を惹きつける。なお、本学学生には、入学時から継続的に5年プログラムについての広報活動を行い、応募資格のある学生には icuMAP（学生/教職員向け学内情報サイト）の成績表に示す等により、直接的に働きかけるよう IT システムに組み込む。

② 大学院ガイドの全面改訂

(i) 学生募集に特化

これまでは受験生と一般を対象としていたガイドを、受験生にターゲットを絞り、目的を学生募集に明確化する。

(ii) ウェブサイトと紙媒体の役割の明確化

グローバル社会における情報収集ツールの変化に伴い、紙媒体の果たす役割を明確化する。ガイドブックはシンプルに大学院の魅力をクローズアップして関心を引き寄せ、ウェブサイトに誘導する。ウェブサイトは詳細な情報を見易く提供することで、媒体間でそれぞれ目的に応じた役割を果たし、広告効果を図る。

(iii) 日英別のコンテンツ

対象を国内の大学生と海外からの留学生に区分し、それぞれの志向を元にコンテンツを整理し、日本語版と英語版を別々に作成して、効果的な情報提供を図る。

③ 2014年度より開始した「大学院進学相談会」を充実させる。進学相談会は、教員との個別面談をメインとしたもので、学外者からの進学希望者だけでなく、本学学部生も対象者とする。参加教員数を増やすことで、受験生の需要に応える。

(3) JDS (Japanese Grant Aid for Human Resource Development Scholarship) やロータリーのプログラム維持と発展

2014年度から国際プログラムとして ABE イニシアティブ (African Business Education Initiative for Youth) のプログラムに申請、入学希望者はいなかったが、引き続きアフリカの学生を積極的に受け入れできるよう体制を整備する。

(4) 博士後期課程研究指導要目の見直し

既存の研究指導要目の整理、名称変更、新たな学際的分野の導入について引き続き検討を行う。

(5) 心理・教育学専攻臨床心理専修の廃止

2014年9月からの心理・教育学専攻臨床心理専修の学生募集停止に伴い、2017年度専修廃止(予定)に向けて、必要な諸手続きを行う。

4. 学生宣誓の実質化

すべての学生が入学に際し宣誓している「国際基督教大学学生宣誓」に基づく学生生活を送ることができるよう、本学学生としての自覚を促す倫理的啓蒙活動を全学で行う。さらに、課外活動の現状を把握し、顧問教員及び学生団体代表者等と協力し倫理的啓蒙を継続的に行う。また、2014年度から重点的に行ってきた薬物問題対策については、引き続き情報発信に努め、学生の本人に反する行為を防止する。

5. 国際教育プログラムの展開

交換留学プログラム(派遣・受入)と海外英語研修(SEA)プログラムにおいて、学生のニーズに合致した協定校の開拓とプログラムの拡充を継続する。特に、交換留学プログラム(受入)において、学生のニーズを受け、春学期のみの学生受入、夏期日本語教育と秋学期を組み合わせた学生受入を増やす。さらに、単位取得を伴う短期派遣プログラム拡充のため、本学の語学教育担当教員との連携を強化する。

また、海外の協定校等から本学に留学して学ぶ1年本科生の支援として、1年本科生と本学学生を繋ぐ支援の仕組み「バディ制度」を導入する他、1年本科生、協定校での留学を終えた帰国学生、本学学生よりなる留学生支援団体の三者が連携して交流会等を実施する等して、より一層の支援強化に努める。

6. 文部科学省スーパーグローバル大学創成支援(SGU)の推進

「文部科学省スーパーグローバル大学創成支援」に採択(事業期間は2014年度より2023年度までの10年)された本学の国際化の取組「信頼される地球市民を育むリベラルアーツのグローバルな展開」の実施計画を着実に遂行する。また、その取組状況をウェブサイトや学報等を通じ、社会に広く発信する。

(1) 世界に開かれた学生受入制度の構築 教学プログラム整備

現在9月に受け入れている学生を4月にも受け入れるための、新たな学生受入制度の検討を開始する。そのために必要な、より柔軟で多様な語学プログラム制度確立のため、学生のニーズ把握を目的として、ヨーロッパ共通言語参照枠(CEFR: Common European Framework of Reference for Languages)に基づく、4月入学生の語学運用能力測定を実施する。

(2) 世界のリベラルアーツ大学との協働 グローバル・リベラルアーツの展開

Global Liberal Arts Alliance (GLAA) との連携においては、Global Scholars Program への学生派遣を開始する。また、GLAA 加盟校内の教員交流開始に向け、その準備に着手する。さらに、5年間で本学学士・海外大学院修士を取得するプログラム“Advanced Entry Program”実施においては、本学協定校であるミドルベリー大学の大学院であるモントレイ国際大学院(Middlebury Institute of International Studies at Monterey)との交流協定を締結し、交流

の実施スケジュール詳細を確定する。一方、事務職員の高度化を目指した研修制度開始においては、海外協定校での職員研修実施に向け調整を行う。

(3) 学修・教育支援センター設立 総合的な支援体制の構築と充実

- ① 学生の学修相談全般の窓口として、アカデミックプランニング・センターと連携し、多様な背景の学生への支援体制構築に着手する。
- ② ライティングサポートデスクと連携しつつ、W コースなどを通じ、全学的なライティング能力涵養に取り組む。
- ③ ICU オープンコースウェアによる授業ビデオや講義録の公開を進めるとともに、学内のみで公開するコンテンツをさらに増やし、様々な困難をかかえる学生の支援、授業時間外の学修の質の向上等、ICT の活用による学修方法の幅を広げていく。
- ④ 教員支援の新たな窓口として、新任教員オリエンテーションの充実、テニユアトラック教員支援、ICT 活用等による授業改善への体系的なサポートを目指す。
- ⑤ TA (Teaching Assistant) /CS (Classroom Supporter) の育成・活用に向けて、オリエンテーションを充実させ、グッドプラクティスを共有していく。
- ⑥ 各種学生調査を整理し、分析、改善を図る。

(4) IR (Institutional Research) の推進

IR オフィスが中心となり、SGU 構想実現に向けた運営 のため、また 2016 年度に行われる本学での自己点検やその後の認証評価に向け、大学内の教学を中心とした様々なデータによる検証の準備を行う。

7. 進路支援等の学生支援

(1) 進路支援に関する環境形成とその充実

学生生活を通して培った自らの可能性を充分認識し、「学び」と「働く」ことの繋がりを学生に意識付けることを目的とするキャリア形成支援行事の充実、並びに就職活動及び進路支援に対する教職員の理解促進、問題共有を図り、全学的見地から進路支援をサポートする体制の構築を今年度も継続する。特に、進路選択の際、本学学生にとってのアクセシビリティを高める。その中で 2015 年度は「大学院進学希望者の支援強化」にも着目し、現状を整備し可視化を目指す。

(2) 9 月入学生支援の充実

9 月入学生支援の充実を図る。外国人留学生、帰国生等 9 月新入生が円滑に新しい環境での学生生活をスタートすることができるよう支援する。生活サポート体制を整備するとともに、新入生オリエンテーション及び関連行事を通じて、外国人留学生と日本人学生、9 月生と 4 月生の実質的な交流を促進させる。なお、行事の開催にあたっては、国際交流サークル等の学生との連携により実施する。

(3) 奨学金制度の見直しと整備

現状に即した効果的な運用をめざし、奨学金制度の見直しを行う。多様な背景の学生に公平かつ合理的に経済支援を行える体制を構築する。新入生には、優秀な学生が本学を第一志望としながらも経済的理由で入学辞退とならないよう、入学時に必要な額(入学金+第一学期目の授業料及び施設費)を給付する「ICU High Endeavor 奨学金」を 2015 年度春季学部入学者より導入する。秋季入学者には、「ICU High Endeavor 奨学金」の 2016 年度導入を目指し準備を進める。

## 8. 研究の活性化と支援

### (1) 研究所特別共通予算の活用

2014 年度予算から設定した、従来型の個別プロジェクト、複数研究所を横断するプロジェクト、外部資金とのマッチングによるプロジェクト等を計画するために使用される「研究所特別共通予算」を 2015 年度も引き続き設定し、研究所全体予算の有効活用と研究活動の活性化を促す。

### (2) 科学研究費助成事業等への応募支援と研究活動の不正防止

科学研究費助成事業や省庁他による委託研究等への積極的な応募と採択を支援し、応募・採択件数のさらなる増加を図り、もって間接経費や管理経費による収入増を図る。また、適正な研究活動支援のため、不正防止計画推進委員会を中心に、不正を未然に防ぐよう教員に対するコンプライアンス周知活動を着実に実施する。

### (3) 研究所に関する諸規程の整理

研究所毎に定められた関連諸規程を全体的に見直し、研究所長会議で審議した上で、研究所全体として統一感、整合性及び公平性のある諸規程を確立する。

## 9. 教職員の任用と育成

### (1) 新テニユア制度の適切な運用と若手教員育成プログラムの充実

2014 年 4 月から導入された新規職階のもとで採用された教員が 2015 年度より順次着任し、新テニユア制度の運用が開始される。助教は、着任後 9 学期目の中間審査及び 15 学期目の最終審査（終身在職権の審査）に備えて、研究・教育・サービスの 3 つの分野において経験と業績を積むことが期待される。助教のメンター及び助教の所属する部門のメンバーは、本学に相応しい教員養成の観点から、教育研究上の助言と指導を行い、終身在職権の取得を支援する。また、学務副学長及びファカルティ・ディベロップメント主任は、メンター及び部門と緊密に協力し、制度の安定的な運用を目指す。

### (2) 業務計画に連動した各職員の業務目標設置と計画的な職員育成

- ① 考課者向け研修等を充実させ、2014 年度に改正した評価シートに基づき、より適切な業務目標の設定を行えるようにする。その為にも本学の理想とする職員像を明確にし、今後の大学を担う職員の育成計画を策定・充実させる。
- ② 様々な身分の職員の担当・活用について、社会情勢や本学の財政状況に基づき、適宜検討し、必要な見直しを行う。

## 10. 大学の情報の統合と活用

新教務システムによって統合された学生及び科目データを基に多面的な分析を行うとともに、これまで実施してきた学生調査の分析に着手し、教学改革の検証と 2016 年度に予定されている自己点検評価のための基礎データを作成する。また、教務システムのデータと教職員データを統合した大学情報データベース（仮称）の導入に向けて、学内における調整を開始する。

## 11. ICU の価値を伝える情報発信

2014 年度に全面リニューアルを実施した大学公式ウェブサイトについて、本学の価値を分かりやすく伝える工夫をさらに徹底する。また、アクセス分析とコンテンツ改善のサイクルを回し、閲覧者に求められる情報を分かりやすいコンテンツとして常時提供する。中でも閲覧者のニーズ



の高いコンテンツは、当該部署とパブリックリレーションズ・オフィスが協働で制作する。

## 12. リベラルアーツにふさわしい環境整備

### (1) 新々2 寮の建設及び既存寮の環境整備

2017 年 4 月開寮に向けて、第 2 次教育寮検討委員会が、学生をメンバーに含めた新々2 寮建設支援委員会での意見を聞く等によって検討した具体的建設計画に基づいて、新々2 寮の建設を開始する。また、既存寮においても寮の環境整備を平行して行い、寮生活を通して「学び」を体感できる運営体制を構築する。

### (2) Living and Learning Project の確立

学生寮の教育寮としての側面を拡充するため、寮での生活(Living)と学び (Learning) を結びつけた総合的な学修を目指す共同体 Living and Learning Community (LLC) に関して、新しく建設する寮における具体的検討を行う。その第一歩として学生を主体とする Living and Learning Project を 2014 年度に引続き実施する。

### (3) 大学施設の建替え等のキャンパス整備の検討

大学施設(新本館、新体育館、新 D 館、大学教職員住宅等)の建替えや大規模改修等のキャンパス整備を実施するにあたり、本学が理想とするリベラルアーツ教育を実践するに相応しいキャンパス及び各施設のあり方を引き続き検討する。

### (4) キャンパスエネルギーの検討

ICU 環境宣言にある「CO<sub>2</sub> 削減による環境負荷低減」の達成等、今後本学キャンパスはエコキャンパス化を目指す。現在策定作業を行っているキャンパスグランドデザインの検討を機に、今後の新たな 60 年に向けて中長期的、総合的かつ計画的な視点に立って、本学キャンパスのエネルギー方針を検討する。

## 13. 財政の健全化と収支均衡

### (1) 大学教育研究予算の 2020 年度までの収支均衡に向けて

2014 年 2 月定期評議員会及び理事会で承認された、「2020 年度までの収支均衡策」を達成するべく、積極的な収入増と支出削減を 2015 年度も引き続き着実に実施する。一方で、2014 年度に学長から提示された「2020 年度までの中期目標」の達成に向けて、学長裁量経費等の特別予算による重点配分を有効に活用する。

### (2) 募金活動の活性化

Creating the next 60 years. を基軸に据えて、次の 60 年を創るための募金活動を引き続き展開する。献学 60 周年記念募金への参加を呼びかけつつ、募金のテーマを明確にして活動の活性化を図る。2014 年度に開始した「ICU 桜募金」は同窓生の寄付参加率を高めた。この裾野の拡大を基盤として、2015 年度は「ピースベル奨学金」をテーマに募金活動を活性化する。ウェブサイトや学報での発信と合わせ、各期の呼びかけ人を通じた期別の寄付依頼も行うことで、広範な参加を呼びかけてゆく。

### (3) アドヴァンスメントの仕組み構築

大学の基幹 IT システム改善に同期させるかたちで再構築した募金実務の IT システムを稼働させる。この新システム導入とあわせた業務改善により、寄付入金情報の入力、本人・寄付使途の特定、関連情報の収集、礼状・領収書の発行等の実務の一層の迅速化を目指す。また、学

長主催の寄付者懇談会、教育研究資金寄付者を対象とした懇親会等をアドヴァンスメント・オフィスの仕組みとして定着させ、「入学 50 周年記念祝賀会」も 2015 年度から入学 25 周年も対象に加える等改善し、寄付者・同窓生とのコミュニケーションとリレーションを広め、深める。

## Ⅱ. 高等学校

国際基督教大学高等学校を取り巻く環境は厳しい。有力競合校間での帰国生徒の奪い合いは激しさを増している。大学付属校、進学校という方針を敢えて取ってこなかった本校が、従来通りの競争力を維持していくことは容易ではない。このような状況下、2014 年 4 月に文部科学省により「スーパーグローバルハイスクール」(SGH)に指定された。本校独自の SGH カリキュラムを展開し、いっそう教育の質を高め、持続可能な競争力の強化を目指す。また、高校財政シミュレーションを実効あるものとし、老朽化した施設設備の段階的改修を継続する。

2015 年度は、具体的に以下の事業を行う。

### 1. 教育に関する事業

#### (1) スーパーグローバルハイスクール (SGH) 事業の実施

SGH に指定された構想「多文化共生社会を目指す社会貢献の提案」の全面的実施を進めていく。今年度からは指定事業の中心である課題研究講座を実施する。

#### (2) キリスト教教育

担当教員交代に伴う、新体制化であらためて従来のあり方を検証し、その充実と深化を図る。

#### (3) 新カリキュラム実施に向けた施策

新カリキュラムになる 2015 年度 3 年生の授業を遅滞なく実施する。

#### (4) 外国人入試枠実施を踏まえ、新しい入試枠についても検討する。

#### (5) 進路指導体制の強化

進路指導体制につき引き続き検討を加え、一層の強化を図る。SGH 構想と連携して海外進学指導の充実を図る。

#### (6) 図書館の充実に係る施策の実施

① 図書館の整備を継続し、SGH にふさわしい機能の充実を図る。

② 資料検索等の授業支援を充実するため、大学図書館との協力関係を強化する。

#### (7) 各学年それぞれの学級活動を通じて、生徒の成長を図る。

#### (8) 学校行事・クラブ活動生徒会活動等による生徒の精神活動の充実と成長を図る。

### 2. 広報・リクルート活動に関する事業

国内外における生徒リクルート活動を教職員の協力のもとに精力的に展開する

① 国内広報活動では、各種合同学校説明会に参加する。校内で開催する帰国生、国内生合同の説明会・相談会では、教育方針や入試の特徴を説明する。在校生を前面に出して学校生活やクラブ活動等を紹介する。

② 海外広報活動では、欧米、アジア地域を中心に各種説明会を実施する。大学及び JICUF (Japan ICU Foundation) や海外子女教育財団との協力を継続する。いずれの場合においても、現地同窓生の支援と協力が得られるよう努力し、同時に海外在住卒業生のネットワークを構築する。

③ ホームページを刷新する。

④ (新) 学校紹介 DVD を作成する。

### 3. 財政計画・施設改善に関する事業

- (1) 高校財政シミュレーションを継続する。
  - (2) 高校財政シミュレーションに基づき、生徒にとって快適で安全な学校生活を保障するため、施設設備改修を実施する。
  - (3) IT 関連のインフラ整備を継続する。
4. 危機管理体制の構築に関する事業
- 防災、生徒指導、IT 関連等を中心に、行政部、教員、職員、それぞれの立場で危機管理意識を徹底する。
- ① 「海外教育活動安全対策規定(仮称)」を検討、制定する。
  - ② 生徒向け防災マニュアルを配布する。

### Ⅲ. 学校法人

#### 1. 献学 60 周年記念事業の推進

“Dialogue (対話)” をテーマに、3 つの柱「アカデミックプログラムの充実」、「キャンパス・教育環境の整備」、「給付奨学金制度の充実」を中心に展開する。公式行事として、献学 60 周年記念礼拝では Hope College 学長を説教者に招待、ICU 祭に開催するホームカミングでは現役の教授による同窓生向け授業を行う。その他、歴史資料室企画のオーラルヒストリー収録や特別展にも協力してゆく。また、周年活動の最終年度にあたり、周年期間 5 年間の活動報告をウェブサイト上でまとめる。

#### 2. 大学キャンパスグランドデザインの作成

2014 年度から着手した、大学キャンパスのグランドデザインを 2015 年 9 月まで(予定)に作成する。このキャンパスグランドデザインは、本学が理想とするリベラルアーツ教育を実践するに相応しいキャンパスを創るため、また研究のみならず、国際交流・グローバル人材育成、自然環境・エネルギー対応等の諸点から、日本のみならず世界に誇れる、また国内外の多くの高校生、大学生に魅力あふれるキャンパスを創るための礎となるものである。

#### 3. 新々2 寮の施設建設の実施やキャンパス整備計画の検討

- ① 2017 年 4 月開寮予定の新々2 寮の建設を実施するとともに、建設資金の準備や借入金の申請手続き等を確実に実施する。
- ② 大学キャンパスグランドデザインに基づき、新本館、新体育館、新 D 館、大学教職員住宅等リベラルアーツ教育に相応しい新たな施設建設やキャンパス整備に係る全体計画を作成する。あわせて、基本金組換えの実施、基金運用方針の検討等を行い、計画実施に要する資金について具体的に検討する。

#### 4. 学校法人全体の収支均衡の検討

大学教育研究予算や高校の収支均衡を目指すとともに、大学や高校の施設建設、大規模改修等を踏まえた、今後の学校法人全体の収支均衡策の検討を開始する。

#### 5. 新学校法人会計基準への対応

2015 年 4 月から施行される新学校法人会計基準に対応して、会計システムの円滑な移行を行ない、2015 年度予算作成及び執行を適切に行う。

#### 6. 那須キャンパス太陽光発電事業の円滑な運営

本法人にとって初めての大规模収益事業である、那須キャンパスでの太陽光発電事業は 2015 年 4 月からの売電開始(予定)となる。本事業を円滑に運営するための管理体制を確立し、収益事

業として安定的な収入を確保し、大学会計へ繰入れを着実に実施することで大学の教育研究に寄与する。

以 上